

Ⅱ 各 年 災 害

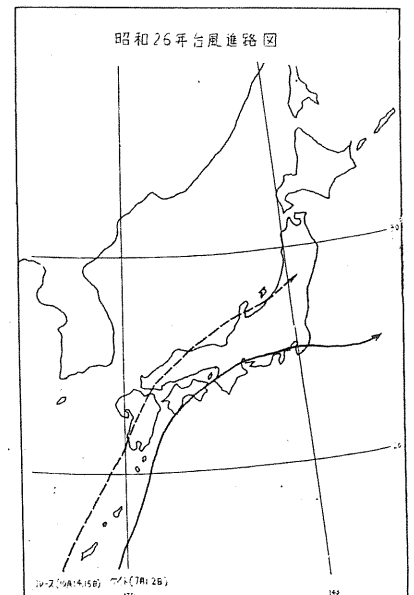
1 昭和26年災害

4月28、29日（低気圧）上海南方海上にあつた低気圧の移動によるもので本県各地、とくに南予方面に暴風雨をもたらし南宇和郡御荘町では28日午前6時から午後7時までの間に155.2耗の降雨量があつた。

7月1、2日（台風6号ケイト）マリアナ群島西方の洋上に発生した台風ケイトは1日午後10時宿毛湾に上陸して四国を縦断したが、山岳地帯では降雨量多く新居浜市大保木では最大日雨量260耗、連続降雨量327.5耗に達した。

7月7～15日（梅雨前線）ケイト台風が去つた後も本邦は梅雨前線帯となつて梅雨模様の天気が続き、中国から接近した低気圧のため7日から雨が降り始めたが、とくに11日～15日までの5日間に12箇の波動性低気圧が次々に九州方面から東進し、その度に大豪雨をもたらした。この降雨は東、中予海岸線沿いとくに重信川流域に多く松山地方气象台では7日から15日までの連続降雨量は528.9耗（時雨量27.5耗）を、温泉郡重信町（元拝志村）地内でも同期間の連続降雨量524.2耗（最大日雨量240耗）を記録した。

10月14、15日（台風15号ルース）ルース台風は薩摩半島に上陸後九州を北上し、伊予灘を経て山口県に入り日本海へ抜けたが、県下各地に強風、高潮による被害が続出した。雨量は東予に多く新居浜市大保木では最大日雨量349耗2日間連続降雨量426耗に達した。この災害による復旧費は県工事1,329,271,000円、市町村工事費544,071,000円であつて工事は昭和33年度完了した。



2 昭和27年災害

1月5、6日(季節風)上浮穴郡地方は1月2日から雪が降り始め、その直後降雨をみたので融雪して雪融水は一時に出水し凍結した。この気象急変によって路側石積及び山腹法面に多大の被害を受けた。また伊予郡海岸部に平均風速20mの北西方の季節風による激浪が来襲して海岸堤防及び県道郡中長浜線等の道路に被害を受けた。

1月24、25日(季節風)伊予三島市地内国道11号線中海岸沿いのヵ所は季節風による激浪のため一部損傷を受け一時交通不能に陥り、また1月5、6日の季節風により被災した県道郡中長浜線は増破する等の災害を受けた。

3月23、24日(季節風)県下の最大風速は22.2mを記録し、これがため海岸地帯に多大の被害を齎つた。

6月22、23日(台風2号ダイナ)土佐沖の梅雨前線は台風の接近に伴って北上し、山間部宇摩郡新立村地方では日雨量115耗、連続降雨量180耗、平坦部伊予三島市では日雨量94耗、連続降雨量121.2耗、南宇和郡御荘町では日雨量100.9耗、連続降雨量132.7耗に達し各河川は急激に増水した。

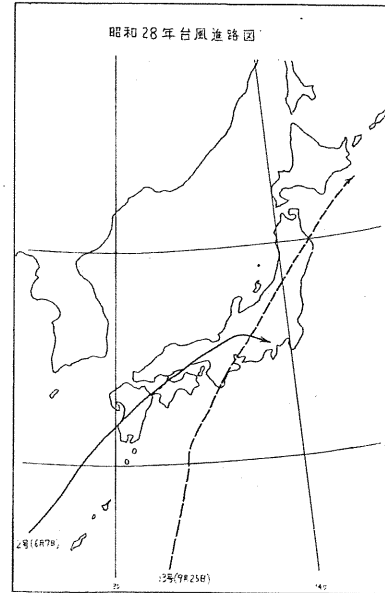
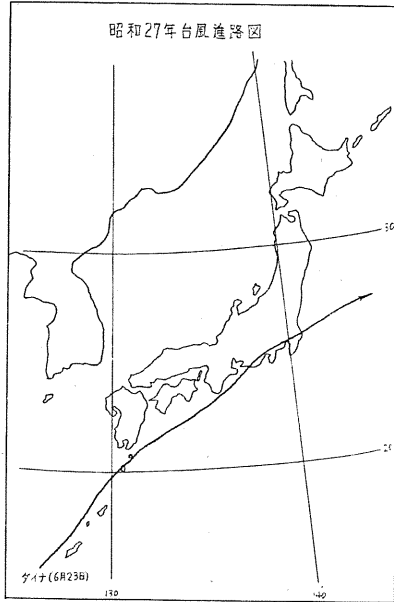
7月2、3日(梅雨前線)日本海を南下しつつあった寒冷前線と梅雨前線とが合致し、島根県浜田附近に低気圧が発生して瀬戸内海西部では南西の風が強くなった。この梅雨前線は2日夕方から南下し始め、低気圧は南東に進み本県の東南を通つた。このため東、中予では2日の日雨量は越智郡玉川村龍岡で130耗に達した。

この災害による復旧費は県工事は618,041,000円、市町村工事87,109,000円で工事は昭和33年度に完了した。

3 昭和28年災害

1月13~15日(季節風)大陸に発生した高気圧の影響による季節風の来襲によって県下の最大風速は25m、波高2.5mを記録し中、南予の海岸一帯に相当の被害を受けた。

6月5~8日(台風2号)九州中部を通過した台風は燧灘中部に達し、本県の北部を通過したため最大日雨量134耗、瞬間最大風速41.9m(佐田岬)となり県下全般とくに東予方面に多量の降雨があつた。



6月25~29日(梅雨前線)北上した梅雨前線は肱川上流々域で停滞し、雷雨性豪雨となつたので雨量は同方面に多く、東宇和郡野村町を中心とする半径30kmの肱川上、中流では250耗を超えた。

9月24、25日(台風13号)台風の接近するにつれて北西の強風を伴い日雨量222.8耗に達する暴風雨となり、西宇和郡では瞬間風速32.9mを記録し、各地に土砂崩れ相つき加うるに台風の通過時が満潮時と一致したので海岸地帯に甚大な被害を受けた。

この災害の復旧費は県工事903,237,000円、市町村工事132,771,000円であつて工事は昭和34年度に完了した。

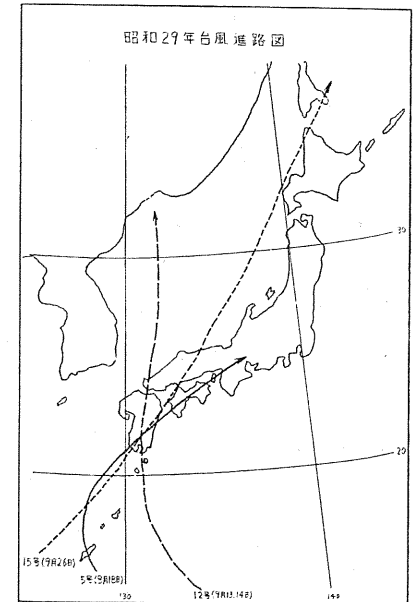
4 昭和29年災害

1月24、25日(季節)季節風と満潮時の高潮が重なつて海岸地帯に被害を生じた。

6月29、30日(梅雨前線)29日昼頃から雷を伴つた豪雨となり、局地的なものであつたが肱川上流地区東宇和郡野村町、宇和町附近では250耗を超え、肱川、宇和川では溢流して相当額にのぼる被害を生じた。

7月4、5日(梅雨前線)南西諸島方面へ張り出して来た太平洋高気圧の影響で東支那海方面の梅雨前線は次第に北上し始め、北九州から豊後水道を通つて土佐沖に達したので中国、四国では雨が降り始めた。6月29、30日及び7月2、3日とかなりな大雨があつた後で地盤は非常にゆるんでいたため各地で崖崩れがあり、また5日早朝の満潮時と強雨時刻が合致して被害は倍加した。しかしながら今回の大雨は雨域が非常にせまく、瀬戸内沿岸とくに今治から松山附近の平地に多く、普通雨の多い南予の山岳部が比較的少ないという梅雨末期の大雨分布の典型的な形であつたため、中予地区に被害が集中した。

8月17、18日(台風5号)鹿児島県川内附近に上陸した台風は、除々に衰弱し地形の影響を受けて副低気圧を発生し、豊後水道を経て四国南西部に上陸して高知市附近に達する頃には次第に衰えた



土木十年史

9月12~14日(台風12号)鹿児島湾に上陸した台風は九州を縦断して北上した。このため松山でも瞬間風速32.8mに達し、佐田岬では50.2mを観測した。夜の満潮時には南予に始まり次第に中、東予に及び記録的な高潮被害を受けた。雨も南予に強く、宇和島で300耗を超える大雨となり、山間部では400耗に達した。

9月25、26日(台風15号)九州に上陸した台風は都城を通過する頃には四国は殆んど、暴風雨圏内に入った。速度は豊後水道に入ってから急に増大し、瞬間風速45.8mに達し満潮時刻より2時間も前に気象潮と波浪で被害が現われ始め、佐田岬では瞬間風速54.6m、松山でも32.0mの強風に見舞われた。海岸では80cm以上の気象潮がおり、最高の潮位が記録され瞬間では松山港検潮儀設置以来の記録となった。

この災害の復旧費は県工事2,317,157,000円、市町村工事837,509,000円で工事は昭和34年度に完了した。

5 昭和30年災害

2月18~20日(季節風)日本海低気圧の異常な発達によって生じた季節風は瞬間風速30m(海上)に達し、海岸部では波浪の打上げで家屋浸水があり堤防を欠壊した。

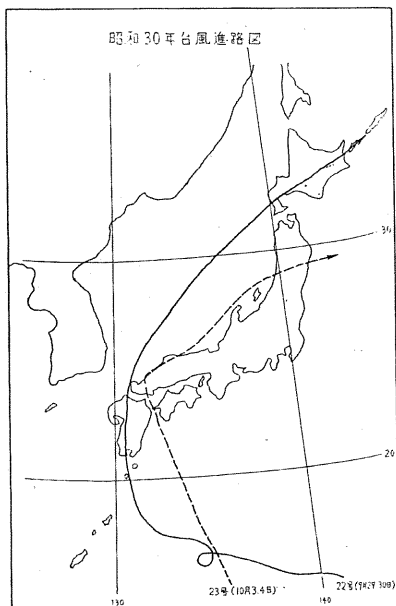
4月15~17日(低気圧)朝鮮南部で発生した小低気圧が16日瀬戸内海に入り雨となった。この低気圧による豪雨は17日昼頃まで続き、瀬戸内西部に100耗内外の雷雨をもたらしたため各河川は増水し、各地に崖崩れが生じ、とくに中予では200耗を超えた所があり被害が大きかった。この4月の大雨は松山地方気象台開設以来二回目であった。

6月18、19日(梅雨前線)雨量は松山、大洲地方に多く、山岳部では山崩れがあり、各河川は増水し、脇川は満潮期に合致したため下流部において浸水し、各所に被害があった。

9月29、30日(台風22号)九州南部に上陸した台風は九州を縦断して日本海に去ったが、このため東、中予では瞬間風速23m、南予地方では31.6mに達する突風に見舞われ、風浪に吹き寄せられた海水は満潮時に合致したため記録的な高潮となり、県下の海岸線全域を襲い、雨量も山間部では405耗を超える稀有の豪雨であった。

10月3、4日(台風23号)台風は日向灘を経て豊後水道、高防灘に入り、山口県徳島を経て日本海に去ったが、佐田岬では最大風速40.4m、瞬間風速49.3mに達した。

この災害の復旧費は県工事264,918,000円、市町村工事39,580,000円であって工事は昭和33年度に完了した。



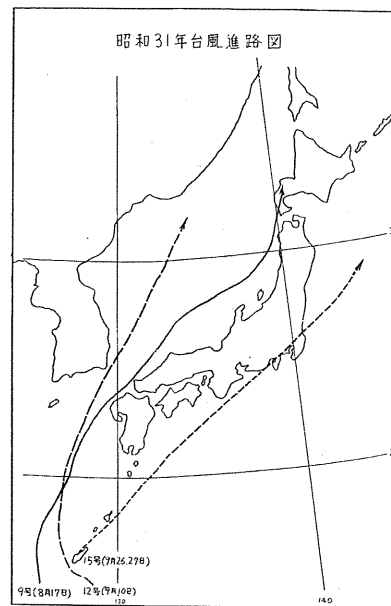
6 昭和31年災害

1月28、29日(季節風)急速に発達した低気圧が日本海に入り、これに伴った寒冷前線が次々と通過したため県下は西寄りの強風、突風を受け、前線通過後風速はさらに一段と強くなり、南予方面では30m以上に達した。加うるに気象潮30cmを記録し、風浪、高潮による被害が海岸線に続出した。

3月11、12日(季節風)土佐沖と日本海を低気圧が通過し、西高東低の冬型気圧配置となり、季節風が強く山間部では降雪をみた。海上では北西風が強く、満潮時には東予の海岸線20kmにわたり大浪が打上げ被害が続出した。

7月1~4日(梅雨前線)東支那海の低気圧から東に延びた前線が九州中部より東南へぬけてから停滞したので、時に強い秋雨をもたらし、山間部では100耗に達し各河川は増水した。

8月16、17日(台風9号)台風は九州西方海上を北進し日本海に入ったが、台風が本県に最も接近



した16日夜半には佐田岬における瞬間最大風速は50mを超え、雨量も大森山(西条市)では実に426耗に達し各地で被害が続出した。

9月7~10日(台風12号)本州附近に停滞していた前線が台風の接近によつて強まり、九州西方を通過するとき県下は暴風雨圏内に入り、各地で30m以上の風速を記録し連続雨量は山岳部では800耗を超えた所もあった。

9月25~27日(台風15号)雨台風と呼ばれた本台風は26日名瀬を通過後四国南方300kmにまで接近し、潮岬沖の方向へ進んだが県下全域に強雨をもたらし、南予地方に被害を出した。

12月4、5日(季節風)大陸から優勢な高気圧が張り出して来たため4日から5日にかけて県下全域に風が強く、宇和島では22.3m、松山では14m、瞬間最大風速22.5mを観測し、この期間中に寒冷前線が

しばしば通過し、俄雨や霧が降り、突風を伴つて海陸共に悪天候に見舞われた。

この災害の復旧費は県工事156,005,000円、市町村工事28,021,000円であつて工事は昭和34年度に完了した。

7 昭和32年災害

2月5~7日(低気圧)四国沖を通過した低気圧のため、とくに海岸部では満潮時に強風を伴い気象潮60cmを記録し海岸沿いの県道郡中長浜線は北西風による波浪のため被災した。

4月19~23日(前線停滞)朝鮮海峡から日本海に抜ける低気圧のため春季に珍しい大雨が県下各

土木十年史

地を襲い、とくに中予松山附近の内川、小野川は増水し護岸の欠壊を生じた。また県道郡中長浜線及び南予宇和、宇和島において県道の崩壊があり、一部交通が杜絶した。

6月26、27日(台風5号)台風は九州北部から中国を縦断したが、その間本県では風雨強く日雨量100mmを越す所が続出した。とくに中、南予崩口川、内川では護岸及び根固の欠壊が生じ、宇和島市では小河川が多数欠壊した。また道路も各所で交通が杜絶した。

7月2、3日(梅雨前線)台風5号の降雨によって湿潤になった土地がまだ充分乾燥しないうちに梅雨前線の影響によって多量の降雨があり、波止浜では時間雨量56.1mm、今治及び大洲を中心として100mmを突破している。このため土地はゆるみ各河川の水量は増大して被害が続出した。

8月18～23日(台風7号)九州西方海上を北上した大型台風7号のため、本県では18日から21日まで降雨があり、山岳地帯では連続雨量600mmを越え日雨量300mmを記録した所もあったので、東予の各河川は警戒水位に達する出水をみ、山間部の道路は甚大な被害を受けた。

9月6、7日(台風10号)台風は九州南部から豊後水道を経て本県の南部宇和島附近に上陸し、瀬戸内海から日本海に出たため本県は全域に亘り風雨強く、とくに東、中予の海岸及び越智郡島嶼部では波浪が高く、降雨量は100mmを越え、県下の各河川はほとんど出水し警戒水位を突破して被害が続出した。

9月16、17日(低気圧)低気圧の東進に従い前線が北上、南下し、このため本県は全域に亘り豪雨があり、三崎半島、南予の道路及び越智郡島嶼部海岸の一部に被害があった。

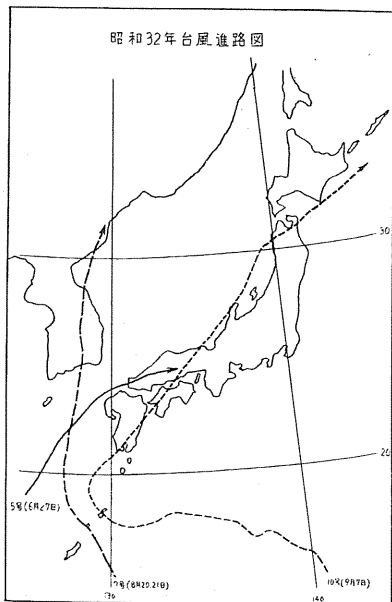
この災害の復旧費は県工事251,031,000円、市町村工事40,702,000円であつて工事は昭和35年度に完了した。

8 昭和33年災害

1月2、3日(季節風)日本海の発達した低気圧から南西に延びる寒冷前線が通過したため季節風が強く、県下全般に北西の強風を受け、風速は宇和島で15m、佐田岬で23.3mに達した。

1月16、17日(季節風)1月15日三陸沖と日本海に低気圧が発達したため季節風が強く、内海航路は欠航し、山間部から宇和島附近にかけて降雪があり、積雪量50cmに達した所もあり、バス路線は各所で不通となった。風速は松山で12.5m、宇和島19.6mに達した。

1月21、22日(季節風)日本海で低気圧が発達し、季節風が強くなり県下全般に西寄りの風が強



く、松山で11.5m、宇和島15.7mを記録した。

2月5、6日(季節風)東支那海に低気圧が発達し、6日から7日にかけて土佐沖を通過したので雨が降り続き、本県内部では降雪をともない、後融雪となって河川、道路に被害があつた。

2月12日(季節風)日本海で低気圧が発達したので季節風が強く、海岸地帯には激浪が打上げ被害を生じた。とくに工事中の海岸などの被害が大きかつた。

4月21～23日(低気圧)華北にあつた低気圧が日本海に入り、発達して東進したので全般に南西の風が強くなり、宇摩地方ではヤマジ風が起り、海上では連絡船の欠航が続出した。その後、この低気圧から南西に延びる前線が顕著な雷を伴い、西日本に南下して来たので県下とくに中予から東予にかけての一带は100mmに近い大雨となつた。その後前線は南下とともに弱まり天気は一時回復したが、22日夕刻から23日にかけてまた低気圧が通過し、前線の活動が活発となり、再び県下は大雨に見舞われ、とくに肱川流域一带は150mm以上の雨量となり各河川は増水氾濫し被害が続出した。

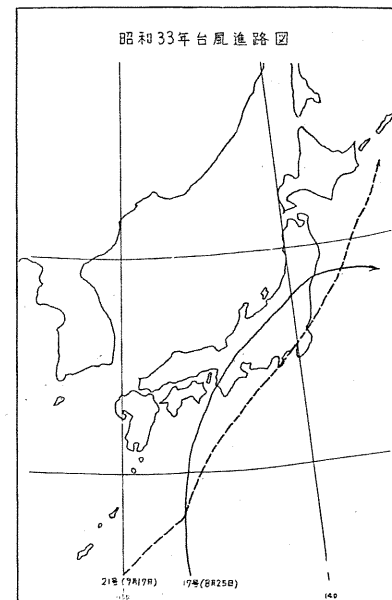
7月2、3日(梅雨前線)本年の梅雨現象は不活発であつたが、島根県浜田地方に大水害をもたらした梅雨前線は、日本海中部まで北上したが日本海低気圧の東進につれて再び南下をはじめ、雷雨を伴つて四国北部まで南下し、今治附近に局地的な大雨を降らせ、波止浜では1時間雨量35mmに達した。折悪しく出水の時刻が満潮時と合致したので各河川とも氾濫し、欠壊ヶ所が生じた。結局東、中予は大雨であつたが南予は雨量が少く局地的な大雨現象であつた。

8月24号、25日(台風17)台風は壱戸岬の南南西およそ100kmの海上まで北上したが、変針して紀伊半島へ上陸したので台風による直接の被害は少なかつたが、本州南岸沿いにあつた前線の活動が活発となり、各地に局地的な大雨を降らせて水害を引き起した。風速は海上15m、陸上11.7m、雨量は山岳部及び南予方面で100～150mmに達し、海岸及び河川、道路に被害を生じた。

9月16、17日(台風21号)沖縄の東方300kmの海上を北上する台風は四国沖に接近し、この間前線の活動で各地に降雨があり、海上の風速強く東予海岸で一部被害があつた。

10月25、26日(低気圧)本邦の南と北に寒冷前線があり、この谷の中に入ってしまったので西高東低の低圧配置となり、海岸線は海上の強風によって激浪が打上げ西に面する海岸線の各所に被害を生じた。

この災害の復旧費は県工事262,503,000円、市町村工事19,821,000円であつて工事は昭和36年度に



土木十年史

完了した。

9 昭和34年災害

1月4～6日（季節風）日本海の発達した低気圧から南西に延びに寒冷前線が東進したため季節風が強く、県下全般に北西の強風をうけ風速は宇和島で18.7m、波止浜11m、佐田岬26.7mに達した。

1月10、11日（季節風）日本海及び九州南西にあつた低気圧は、その後大陸の優勢な高気圧におされ発達しながら東進したため季節風が強く、風速は松山で17m、宇和島18m、波止浜8.9m、大洲10m、佐田岬28.3mに達した。

1月15～17日（季節風）季節風は17日が最も強く宇和島で21.7mを記録した。積雪は南予に多く10年来の大雪と云われ航路の欠航、鉄道、道路の不通行所が続出した。

3月12、13日（季節風）大陸にある高気圧の影響をうけた寒冷前線の東進により北の風が強く、宇摩地方では風速16.2mを記録し海岸の一部に被害があつた。

4月9、10日（低気圧）黄海にあつた低気圧が日本海に入り発達したので県下一帯は北西の風が強く、今治市内では風速16mを記録し、越智郡陸上部西海岸地帯は激浪のため護岸の欠壊ヶ所を生じた。

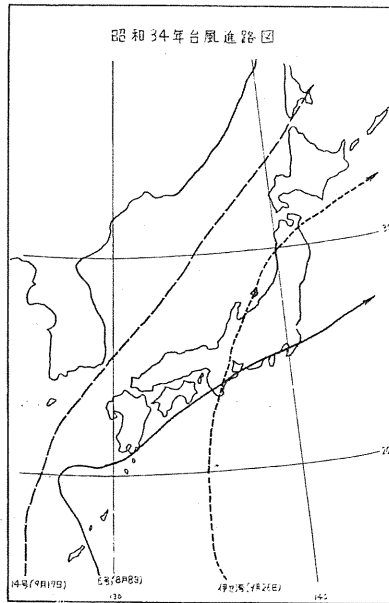
6月10日（低気圧）低気圧が西日本付近を通過したので県下全般に風雨が強く、北西風による波浪のため越智郡、今治市の海岸護岸の一部が欠壊した。

7月11日（梅雨前線）山陰沖に停滞していた梅雨前線が本県を通り、太平洋岸まで南下したため県

下各地で大雨が降り、このため喜多郡地方の道路に一部被害があつた。雨量は大体50耗程度であつたが、ところによっては100耗に近いものもあつた。

8月6～9日（台風6号）台風が九州に上陸した頃から県下の風雨は強くなり、西条では風速25mを記録した。雨は山岳地帯では300耗以上、平地でも100耗乃至200耗の大きな雨量となり、とくに新居浜市大保木では733耗を記録した。このため雨による被害が全般に大きく、土砂崩れによる家屋の全、半壊や、河川が増水して各地で橋梁の流失、堤防の欠壊、道路の損傷等が続出した。また県下全般とくに東予では高潮による被害があつた。その時の気象潮は新居浜の51cmが最高で全般に10cmから50cm位となっている。

9月16、17日（台風14号）台風の進路は朝鮮、海峡から日本海へ抜けており直接本土へは上陸しな



つたが、平均最大風速を南予では17日午前中に、中予、南予では夕刻前に、それぞれ観測し、佐田岬では平均最大風速37.3mという物凄い南東風を観測している。雨は高知県境の山岳地帯から東予に多く、西条市大森山が時間雨量53耗を記録している。県下の主な被害は強風による波浪によつて東、中予の海岸が災害をうけた。

9月26、27日（台風15号、伊勢湾台風）台風15号は潮岬附近から紀伊半島に上陸し、中部日本に史上最大と云われる被害を及ぼしたので伊勢湾台風と名づけられたが、台風が一番接近した頃県下各所とも最大風速を観測している。波止浜23.8m、佐田岬31.7mと瀬戸内海に面した所が相当強かつた。雨量は東予に多く1時間雨量100耗に達したところもあり、とくに新居浜東部山岳及び宇摩郡の山岳部では300耗を突破して大きい被害が続出し、その他県下各地とも相当の被害があつた。

この災害の復旧費は県工事717,383,000円、市町村工事53,226,000円であつて工事の進捗状況は昭和36年度末現在で76%である。

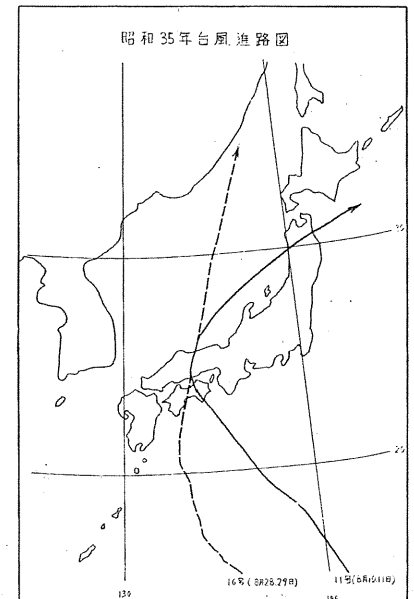
10 昭和35年災害

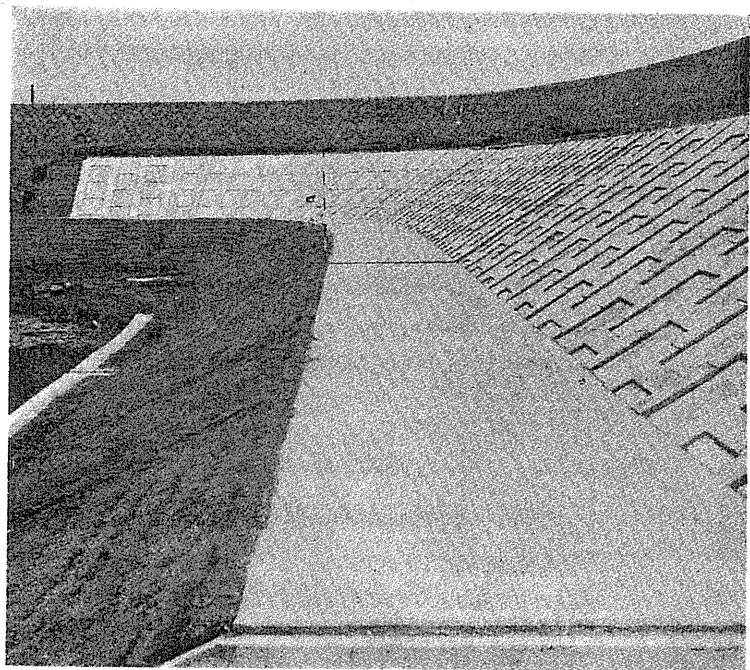
1月27、28日（季節風）低気圧が日本海を東進したのでこれにともない寒冷前線の通過で季節風が強く、雪と強風で県下各地の交通路は混乱し、久万町では零下15度を記録し、10年来の寒さであつた。とくに県道八幡浜長浜線は海岸線を走っている関係から北西風に吹き寄せられた激浪により被害を受けた。

5月24日（チリ地震津浪）チリ地震によつて起つた津浪によつて被害を受けた成瀬海岸は御荘港の最も奥深い所にあり、既往の最高潮位を突破して3.9mを観測した。潮は海岸堤防を溢流し、或は退潮時砂の吹き出しを受け、短時間に多回数の潮の打上げによつて堤防が欠壊した。

6月21、22日（梅雨前線）低気圧が東支那海にあり、温暖前線が九州西方海上から接近するにつれて南予では21日から雨となり、前線が四国沖を通過するまで降り続いた。次いで寒冷前線の接近で中、南予で再び強雨が降り始め、大洲では1時間最大雨量44.7耗、宇和島34.9耗を記録している。県下で200耗以上の多雨域を推定すると東宇和郡、伊予郡及び北部県境に分布している。なお県下平野部では北部80耗内外、中部100耗内外、南部100～200耗となっている。以上の大雨によつて県下全般に亘り被害が続出した。

7月7、8日（集中豪雨）





昭和35年災害復旧工事（生壬川港）周桑郡壬生川町地内（昭和36年度）

7月7日夜から8日にかけて近畿、中国、四国では梅雨末期の集中豪雨に見舞われ県下では高縄半島附近に集中豪雨があり、7日、8日の合計雨量は今治、波止浜、菊間で150耗前後となり越智郡内及び今治市の河川、道路に大きい被害があった。

8月10、11日（台風11号）8月8日3時頃、硫黄島の南々西約500kmの海上に台風11号が発空、中心示度980ミリバール、中心附近の最大風速は40mとなっている。その後発達しながら北上を続け室戸岬のやや西方に上陸した（11日4時半頃）。上陸後は剣山西方を経て香川県西部、岡山県西部をとおり、その台風のため本県京予地方の河川、道路に被害が続出した。

8月28、29日（台風16号）台風16号は17日15時頃マリアナ東方で発空した。その後北西に進み28日3時には足摺岬の南方500kmの海上に達し中心示度は970ミリバール、中心附近の最大風速は45mとなり本邦に上陸したのは29日14時頃で高知の西側を通っている。その後16時20分頃多度津附近を通過して瀬戸内海に入りさらに北北東に進んだ。このため県下全般に亘り河川、海岸、道路等被害が続出した。とくに河川は山岳地帯に降雨が多く異常出水をし、道路は山くずれ、崩壊を生じ海岸では東予（三島）、越智郡（島）等風速大にして波浪高く各所に護岸の欠損を生じた。

この災害の復旧費は県工事 322,401,000円、市町村工事 21,894,000円であつて 工事の進捗率は昭和36年度末現在で57%である。

11 昭和36年災害

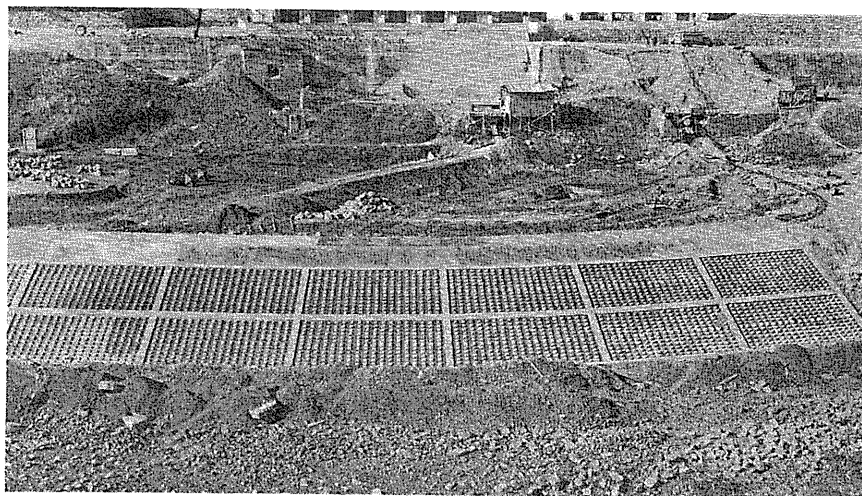
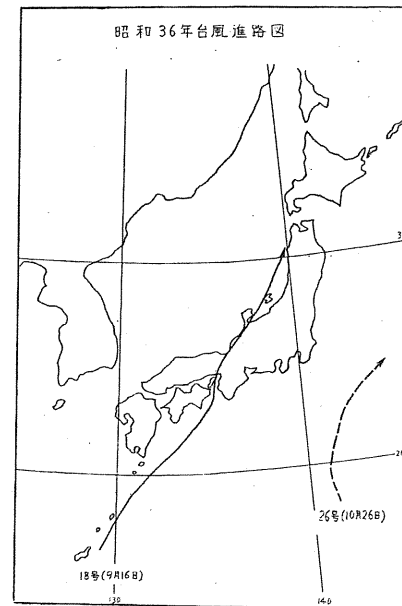
1月3、4日（寒冷前線）気温極度に低下して積雪多く交通路線は一時混乱し、久万地方の路側石積に崩壊があり若干の被害があつた。

2月13、14日（冬期風浪）優勢な大陸高気圧の影響で季節風が強く、越智郡島嶼部の海岸に波浪による被害があつた。

6月8、9日（梅雨前線）6月8日から本格的な梅雨にはいり各地に降雨をみ、山間部では300耗以上の降雨があり、そのため南予の道路に被害があつた。

9月14～16日（台風18号、第2室戸台風）台風18

号は9月16日3時足摺岬の南方150kmを通り西側半径300km、東側400kmのA級台風で鳴門海峡から阪神地方を経て日本海に入り、能登半島附近から温帯気圧となつて去つたものである。台風が室戸岬附近を北東に、紀伊半島に向う頃から本県も暴風雨圏内に入り各地に大雨を降らせ、東予の山岳部で400～750耗、中予の山岳部で150～500耗また南予でも平野部70～150耗、山岳部150～350耗の雨量があつ



昭和36年災害復旧工事（脇川）喜多郡脇川町地内（昭和36年度）

土木十年史

た。

県下各河川とも全域にわたり水位が上昇し警戒水位を突破した河川は金生川、関川、中山川、蒼社川、加茂川、面河川などである。また風浪は14日夕刻から次第に強まり越智郡島嶼部には海岸の被害が続出した。

10月25～27日（台風26号）10月25日から県下全般に雨量多く（山岳部200耗、平野部100耗）とところにより集中的に降つた雨で各地に海岸や道路の被害を受けた。

この被害の復旧費は県工事 812,050,000円、市町村工事66,396,000円であつて、工事の進捗率は昭和36年度末現在で28%である。

Ⅲ 気象災害表

昭和20年以降の気象災害は次のとおりである。

気象災害による被害一覧表 (昭和25年～35年)

発生日月	災害原因	死者	傷者	行方不明	家屋(戸)					非住家	田(ha)		畑(ha)		道路破損	橋梁破損	堤防欠損	山(け)くずれ
					全壊	半壊	流失	床上浸水	床下浸水		流埋	冠水	流埋	冠水				
昭和25. 9.10～14	台風5号 a	5	92	—	178	623	13	8,124	31,692	1,918	99	6,595	105	1,561	655	87	390	542
26. 6.30～7.2	台風10号 b	—	—	—	—	—	—	76	806	1	1	755	10	263	54	29	47	18
7. 7～19	梅雨前線	5	25	—	30	75	2	362	1,671	32	517	3,341	99	778	420	51	151	381
10.13～15	台風18号 a	28	305	17	525	1,420	4	1,056	4,194	2,164	1,129	8,373	103	2,492	311	29	229	29
27. 6.22～23	台風19号 c	—	1	—	—	—	—	211	—	—	—	35	—	—	10	—	—	13
7. 1～3	梅雨前線	—	—	2	—	1	—	359	—	9	1	161	1	20	37	8	26	15
7. 8～11	梅雨前線	14	8	2	—	36	6	783	4,525	96	160	3,000	49	258	311	77	168	256
28. 6. 4～8	台風30号 a	1	—	2	17	7	—	62	1,163	34	37	3,480	78	225	143	24	29	140
6.25～29	梅雨前線	—	4	1	2	8	2	315	4,528	169	143	4,175	113	1,358	294	51	100	203
9.22～25	台風25号 c	1	—	—	—	2	—	319	5,542	112	2	996	1	73	36	8	36	20
29. 6.28～30	梅雨前線	—	—	—	—	—	—	592	7	1	1,601	3	68	45	4	8	50	
7. 4～5	梅雨前線	1	1	—	4	13	—	2,039	—	31	1,671	8	25	113	10	56	88	
8.16～19	台風4号 a	4	7	—	12	8	1	127	3,707	82	12	981	6	311	113	13	65	19
9.12～14	台風5号 a	1	24	2	228	518	11	7,340	28,130	930	64	4,730	144	930	504	59	294	102
9.24～26	台風5号 a	7	7	9	564	1,353	86	7,070	18,977	2,226	47	924	42	594	541	35	—	21
30. 9.27～30	台風5号 a	—	5	—	13	103	2	1,148	8,661	289	22	1,425	71	398	132	21	54	42
10. 2～4	台風5号 a	—	1	—	7	6	—	47	1,069	56	—	348	—	39	20	—	15	10
31. 9. 7～9	台風5号 a	—	—	—	4	2	—	148	46	—	7	—	—	17	—	1	19	
9.25～26	台風5号 c	—	—	—	—	—	—	4	—	—	—	26	—	—	3	3	2	19

発生日月	災害原因	死者	傷者	行方不明	家屋(戸)					非住家	田(ha)		畑(ha)		道路破損	橋梁破損	堤防欠損	山(け)くずれ
					全壊	半壊	流失	床上浸水	床下浸水		流埋	冠水	流埋	冠水				
昭和32. 6.26～27	台風5,701号 a	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	14
8.19～21	台風5,707号 a	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	28
9. 5～7	台風5,710号 a	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	19
33. 4.22～23	低気圧	6	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	49
7. 2～3	梅雨前線	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2
34. 4. 3～5	低気圧	27	6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
8. 7～9	台風5,906号 a	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	24
9.26～27	台風5,915号 c	2	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	12
35. 6.21～22	梅雨前線	—	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	37
7. 7～8	梅雨前線	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	6
8.28～30	台風6,016号 b	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3
36. 9.14～16	台風18号 c (第2室戸台風)	16	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

台風 a. b. c は経路別を示す

a 本県の西側北上 b 本県上を通過 c 本県の東側北上

気象災害総括表

種別	季節	寒前	冷前	梅前	雨前	前線北	前線南	前線通	冬型	台風	台風前	台風上	低気圧	高気圧	地震	備考
昭和20年	2	—	—	—	—	—	—	—	—	7	—	—	—	—	—	—
昭和21年	6	—	—	—	—	—	—	—	—	2	—	—	—	—	—	—
昭和22年	3	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—
昭和23年	3	—	—	—	—	—	—	—	—	3	—	—	—	—	—	—
昭和24年	4	—	—	—	—	—	—	—	—	3	—	—	—	—	—	—
昭和25年	7	—	—	—	—	—	—	—	—	9	—	—	—	—	—	—
昭和26年	1	—	—	—	—	—	—	—	—	3	—	—	—	—	—	—
昭和27年	1	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—
昭和28年	3	—	—	—	—	—	—	—	—	2	—	—	—	—	—	—
昭和29年	2	—	—	—	—	—	—	—	—	5	—	—	—	—	—	—
昭和30年	4	—	—	—	—	—	—	—	—	7	—	—	—	—	—	—
昭和31年	2	—	—	—	—	—	—	—	—	3	—	—	—	—	—	—
昭和32年	4	—	—	—	—	—	—	—	—	6	—	—	—	—	—	—
昭和33年	9	—	—	—	—	—	—	—	—	4	—	—	—	—	—	—
昭和34年	6	—	—	—	—	—	—	—	—	5	—	—	—	—	—	—
昭和35年	5	—	—	—	—	—	—	—	—	3	—	—	—	—	—	—
昭和36年	2	—	—	—	—	—	—	—	—	3	—	—	—	—	—	—